

科目名	高次脳機能障害学Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害について総合的に理解し、国家試験に対応した問題が解けるようになる							
【実務者経験】 須崎くろしお病院にて、言語聴覚士として成人・小児分野の言語治療に従事。							
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が高次脳機能障害に行く、評価からリハビリまでの知識を関連付けて考え、技術を修得する 国家試験に対応した問題を解き、解説できるようになる							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害について総合的に理解し、国家試験に合格できる程度の問題を解くこと、またその問題について適切な解釈ができるようになる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	神経心理学の基本概念について理解できる						
2	背景症状について理解できる（意識障害、見当識障害、感情障害など）						
3	注意障害について理解し、問題を解くことができる						
4	記憶障害について理解し、問題を解くことができる						
5	失認について理解し、問題を解くことができる						
6	視空間障害について理解し、問題を解くことができる						
7	動作・行為障害について理解し、問題を解くことができる						
8	前頭葉症状について理解し、問題を解くことができる						
9	半球離断症候群について理解し、問題を解くことができる						
10	認知症を呈する疾患の高次脳機能障害について理解し、問題を解くことができる						
11	外傷性脳損傷の高次脳障害について理解し、問題を解くことができる						
12	評価法について理解し、問題を解くことができる						
13	訓練・援助についての基本原則について理解し、問題を解くことができる						
14	訓練方法について理解し、問題を解くことができる						
15	チームアプローチについて理解し、問題を解くことができる						
	定期試験						
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害ポケットマニュアル 高次脳機能障害学							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							